

リュウキュウヤマガメ

〔過去 5 年間の調査より〕

大 谷 勉
喜屋武 優子

リュウキュウヤマガメの調査は、これまで 2000 年～2002 年まで沖縄県の調査依頼により実施したが、調査をする上で 3 年間の調査ではリュウキュウヤマガメの実態を把握することは困難と思われた。そこで、調査依頼終了後も現状変更を受け、継続調査を実施している。2004 年を終了した今年、調査を始めて 5 年経過したことから、調査地でのリュウキュウヤマガメと側溝の関係を、データを元に検証を試みた。

調査地の概要

調査地は沖縄北部（調査地の地名は乱獲防止の観点から、ここでは伏せることにさせていただく）の一部で実施している。そこは農道と林道からなり、その両道には、側溝が全域ではないが左右に敷設されており、林道にはその側溝に進入・落下した小動物のため、道路と反対側に階段や斜面を設け、側溝に入った小動物が出やすく配慮されているが、農道には無い。また、両道では年に 2 回側溝掃除が実施され、掃除後は落ち葉の堆積や側溝脇の雑草が伸びるまで、リュウキュウヤマガメ（以降ヤマガメと称する）の側溝に下りる個体数は減少した。2002 年 3 月に林道脇の一部の山（私有地）が重機により一部崩され、コシダのブッシュが破壊されている。2004 年 3 月には林道の両側の樹木が幅 2m ほどの範囲で伐採（台風時の道路上への倒木防止によるものと思われる）され、一部では日中でも薄暗い場所が、日当たり良好な環境となり、その年は側溝掃除も実施されていない。そのため、その後の台風により、農・林道共に側溝には落ち葉や枯れ枝が多く堆積し、側溝が短い距離で分断されている状態が続き、ヤマガメは発見しにくくなっている。

調査方法とマーキング個体

調査は両道を徒歩で歩き、側溝やその周辺にいるヤマガメを発見し、カメの縁甲板に直径 2mm の穴を開け、白色の水中ボンドを埋め込み、マーキングとした（甲長が 8cm 以下の小さな個体は後部縁甲板の一部の突起部を切除し、新個体と再捕獲個体を判別できるようにした）。また、前部の縁甲板のマーキングには調査員が分かるようにカラーワイヤーを水中ボンドに外部から分かるように埋め込んだ。マーキングをした個体は個体表に記録し、測定後同場所に放逐した。2000 年 8 月より発見もしくは再捕獲の成体の一部に移動経路が分かるようにタコ糸巻き（径 3cm、長さ 15cm、重さ 30 g、タコ糸の長さ 80m）をカメの臀甲板の左右いずれかに取り付け、その軌跡を追う調査も実施（これまでにタコ糸巻きを見失った個体は 1 個体のみで、後は全て回収している）している。タコ糸巻き個体を追跡中に、山中で発見した個体もマーキングを実施した。また、山中において、ヤマガメが利用した岩穴や樹木の根が腐敗してできた

穴にはアルファベットで記号を付けた。

再捕獲の個体は発見時ごとに記録したが、サイズ測定は再捕獲の間隔が半年を越す場合のみ測定した。しかし、体重と直腸温は再捕獲時に全て測定するように努めた。

調査はこの農・林道を主に行っているが、北部の他の地域（現状変更で許可を受けている地域）でも、発見があればマーキングと測定は行っている。その結果、2004年度終了時にはマーキング番号は465個体（マーキングの重複個体は除く）となっている。2000年6月の調査開始から2002年4月までは調査地の選定でマーキングと測定は実施したが、捕獲位置は記録していない。調査地選定後もダム工事の関連工事で、当初の林道調査地を変更した経緯があり、捕獲位置の地図上への記録は2002年5月以降実施した。また、現調査地でも諸事情で位置の記録や測定が実施されない個体もあり、マーキングが重複したもの（重複個体であってもサイズの大きな違い、位置関係が重複しない個体はデータ数に含めた）、個体表の紛失も一部に出た。これらを除き、地図上へ捕獲位置の記録を行えた個体（一部調査地沿いの山中で記録した個体も含む）は、農道で166個体、林道で44個体となった。位置記録の無い個体は農道で72個体、林道で48個体ある。結果、本調査地でのマーキング個体は農道238個体、林道92個体となり、総数では330個体である。これらのマーキング個体の出現位置を、表記個体数が多く見づらくはなるが、側溝への出現分布を明確に示す意図で（図－1・2）に示し、農道・林道沿いの微環境を（図－3・4）に示した。

これらのデータより、農・林道に出現するヤマガメの様々な事柄が読み取ることが出来るが、短期間に解析することは困難で、（図－1～4）を用い、ヤマガメが出現する側溝の検証と月別個体数の変動及び雌雄の性比検証を行った。

農道側溝への出現検証

農道調査地（図－3）の距離は約1.7 km、左に川が流れ、右は急斜面の多い山に接しているが、林道入口より大きく左へカーブし、山の峰へ上がる。農道沿いにはミカン畑（A・D・E・F）、ハウス農地（B）、資材置き場（C）などがあり、橋（2）までの農道は傾斜が少なく、橋（2）から林道入り口までは傾斜角が約5度の坂道となり、山側にはところどころに切り土の土留めに建地ブロックが1～5mの高さに積まれている。朝夕には多くは無いが地元の人がウォーキングやランニングする姿が見られる。その山裾に側溝が敷設されており、地元人よりの聞き取りでは、この側溝内はヤマガメが昔から多く出現している場所でもある。

このような地形の中で、過去5年間の農道マーキング個体の捕獲位置（図－1）を見るとほぼ全域に出現しているが、ミカン畑（A・D・E・F）の前や、建地ブロック（イ～ヌ）資材置き場（C）の前では、発見が少ない。特に、資材置き場の前では発見がなく、その要因としては建地ブロック（高さは約1m）で囲われ、側溝脇は雑草がなく乾燥し、側溝内は土砂が堆積しているものの餌となる土壌動物や落下した果実が見当たらないことが挙げられる。建地ブロック（ト）の先の側溝内にはヤマガメが多く発見されているにもかかわらず、全く記録が無い。建地ブロック（ト）の前は緩やかな傾斜角（約3度）となり、その手前には小さな沢があるため、堆積物が溜まらず沢に流れ落ち側溝内が乾燥することや、建地ブロックの先は傾斜が無い。さらに距離にしても約10mだが、側溝の周囲は雑草で覆われ側溝内には堆積物が多く

湿度もあり、上には山からの樹木の枝がかかり日陰となり、豊富な餌や身を隠すことができる場所があることで、建地ブロックの方へは行かないものと思われる。例え移動したとしても留まらず沢に下りてしまうのであろう。建地ブロック（チ・リ）も（ト）と同様に傾斜があり、乾燥していることで発見が無く、（ヌ）は多少樹木の日陰があり2個体の発見があるのみであった。

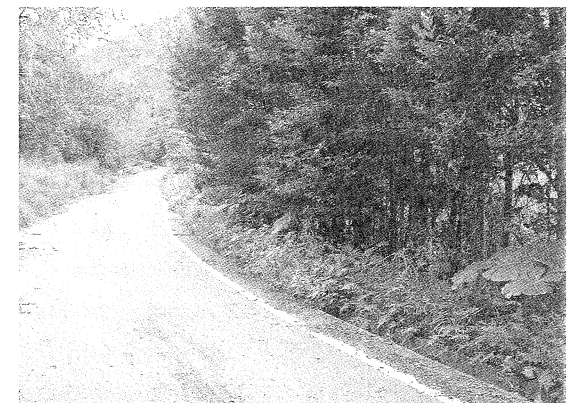
本農道では側溝内に集中してヤマガメが出現する場所として次の①～⑥が上げられる。

- ①建地ブロック（ハ・ニ）間
- ②道路横断配水管（F'～G'）間
- ③建地ブロック（ホ・ヘ）間
- ④建地ブロック（ト）～橋2間
- ⑤ミカン畑（D）～建地ブロック（チ）間
- ⑥建地ブロック（チ）～側溝端間

この6箇所の特徴をみると、①は、側溝が平地で堆積物が多く、雑草が側溝に覆い被さっており、土壌動物や落下果実も多い。また、雑草によって側溝が被われ、日陰ができ、堆積物内は常に湿度が高く、身も隠せる。②は、ハウス農地の前で比較的乾燥気味だが雑草が被さり、道路横断配水管F'・G'の間で双方とも約60cm深さの側溝落し口で挟まれて脱出しにくく、比較的若く小型のヤマガメが多く留まっている。③は、資材置き場（C）の手前から小さなミカン畑の間の約4mの距離だが、側溝が平地で落ち葉が多く堆積し、長さ1mの側溝蓋もあり、身を隠すには十分で土壌動物も比較的多い。側溝に下りたヤマガメは建地ブロック（ホ）の前を抜け、道路横断配水管（H'）は常に堆積物で詰まっており脱出し易い。④は、距離的に約10mの側溝だが、農道では最も多くヤマガメが発見されており、側溝内は堆積物が多く、雑草に被われ、山の樹木の枝で常に日陰であることで、土壌動物や落下果実も多く、身を隠すにも十分な環境が整っている。⑤は、傾斜が約5度の側溝ではあるが、山側より樹木の枝が被い、側溝脇の雑草も部分的に被さっている。また、建地ブロック（チ）の手前より地下水が側溝内に常に少量流れ込んでおり、常に湿度が高く、落ち葉がところどころに堆積し、樹木の落下果実が堆積する。⑥も側溝の傾斜が約5度あるが、側溝脇の雑草が覆い被さり、やや乾燥気味ではあるが、落ち葉の体積が見られ、端は側溝が終わりであることで、⑤から移動したヤマガメや側溝を下りたヤマガメの一部は側溝を登っているが、溜まる場所になっている。



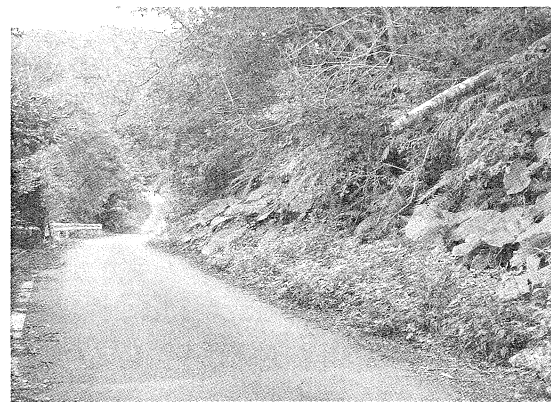
①建地ブロック（ハ・ニ）間



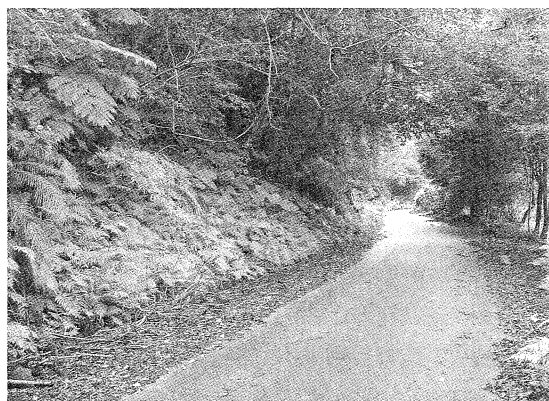
②道路横断配水管（F'～G'）間



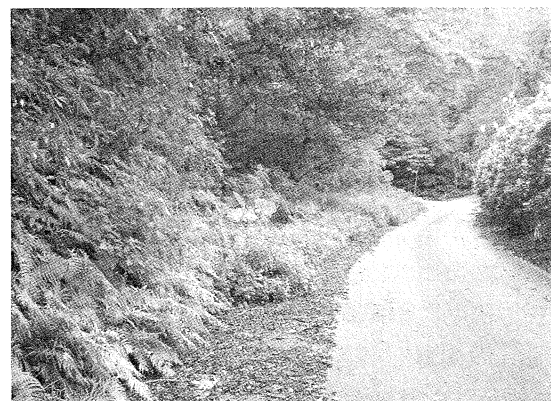
③建地ブロック（ホ・ヘ）間



④建地ブロック（ト）～橋2間、



⑤ミカン畑（D）～建地ブロック（チ）間



⑥建地ブロック（チ）～側溝端間

林道側溝への出現検証

林道調査地（図一4）は林道入口より約1 kmの距離であるが、調査地をすぎると2箇所のみ、少数のヤマガメを側溝で見かける場所があるだけである。

調査地の林道沿いには人工物はビニールハウスがあるだけで、途中で山側の斜面上と反対の崖側に小さなみかん畑、少し中に入った位置に残土置き場がある。交通量も少なく、時折地元の手車や工事関係の手車が走り、残土を積んだトラックが一時的に来るだけである。また、農道と同時期に側溝掃除が年2回行われている。調査を始めて大きな変化は2002年3月に私有地ではあるが、ヤマガメが多く出現した側溝の道路沿いの山が、シイタケのホタギの採集目的で、重機によって崩され、ヤマガメの繁殖や越冬に使用されていると思われるコシダのブッシュが半分以上破壊され、周囲の樹木も半分以上伐採されている。その後、それまで出ていたヤマガメが右側溝（駐車帯2～道路横断側溝S）に全く発見されない状態となり、2002年以降その上の調査地の左側溝でもヤマガメを見かけなくなっている。2001年はまだ捕獲位置を地図上に記録しておらず、工事との因果関係を示すことができず、悔やまれてならない。また、2003年冬に台風による林道への倒木を軽減するためと思われる林道沿いの樹木の伐採が行われ、そのため年2回行われていた側溝掃除は2004年には行われず、農道や林道の側溝内は落ち葉や

小枝が短い間隔で詰まり、詰まった場所ではヤマガメが側溝内より脱出しやすいが潜りにくい状態となり、詰まりと詰まりの間は側溝の乾燥化が進み、2004年度は（図一2）からもヤマガメの発見率は低下していることが分かる。

林道の側溝は傾斜角が4～8度あり、林道入口よりビニールハウスの間は林道両脇の樹木が繁茂し、良い日陰を作り出し、側溝には雑草が被さり、堆積物は少ないがヤマガメの生息に良い環境となっていた。同じことが道路横断側溝N'～Q'、R'～残土置き場の脇道、駐車帯2～道路横断側溝S'にもいえ、ヤマガメが多く出現していた。この状況が2004年の林道脇の樹木伐採により、その年の台風や側溝掃除の中止などで、道路脇の雑草の荒れや枝木・落ち葉の詰まりによる側溝の分断、側溝内の乾燥で、一時期ヤマガメは全く見られなかった。その後、2004年8月頃には道路脇の雑草が元に戻り林道入口から道路横断側溝M'間と道路横断排水管～道路横断側溝Q'間の左右の側溝に少しずつ、ヤマガメが出現し始めている。

このような状況下でヤマガメが集中する場所は

⑦林道入り口～道路横断側溝M'間

⑧道路横断側溝N'～駐車帯1の、手前間

⑨道路横断側溝R'手前～残土置き場間

が挙げられ、その各場所には複数の階段側溝や幅2 mほどの斜面側溝が設置されている。

この3箇所を検証すると、⑦は斜度3～8度の坂で側溝の山側は斜面が側溝の際まで迫り、シダ類を中心に植物が密生し、道路の両側は高い樹木があり、日中でも日陰となる。途中2箇所の小さな谷がある。側溝内に堆積物は無く、側溝脇の雑草が覆い被さっており、比較的湿度がある。⑧は約300 mの距離で、最初の約100 mは山側のみの片側側溝で日が当たるが側溝は雑草が覆い被さり、緩やかな坂（斜角3度）で落ち葉の堆積物がある。後は山の斜面を切り取る道路（斜角8度）で両側は樹木が多く日陰となり、側溝内の湿度がやや高い。両側の斜面はシダ類を中心に植物が繁茂している両側側溝となる。また道路が大きくカーブしていることで、多少の落ち葉の堆積物が部分的にある。⑨は側溝の反対側に背の高い樹木があり、日陰を作り出しているが、側溝側の斜面はシダ類と雑草で被われ、側溝も雑草で覆われている。側溝内の堆積物は無く、やや乾燥気味だが、道路横断側溝の落とし口や階段側溝部に落ち葉が多少堆積している。ただし、⑦～⑨の日陰は2004年以降樹木の伐採で全体的に日陰が少なく明るくなっている。

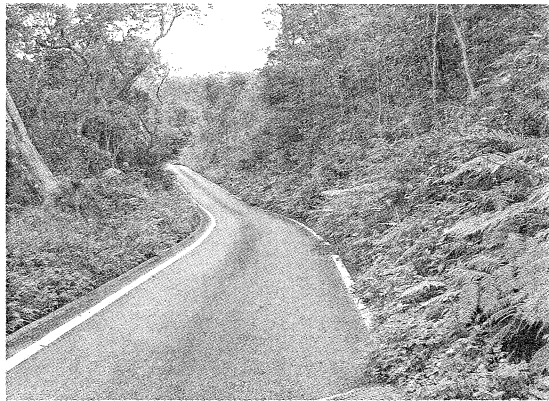
なお、山を崩した位置より上の林道の検証は行わないこととし、次の各場所の環境写真も林道脇の樹木が伐採された後の写真である。



⑦林道入口よりビニールハウスの間



⑧道路横断側溝 N' ~ Q'



⑨道路横断側溝 R' ~ 残土置き場



駐車帯 2 ~ 道路横断側溝 S'



2005年2月に崩されたコシダ斜面、左側が次写真の2001年に崩された峰のコシダ群生地
(手前が駐車帯 2)



(今は崩された峰の下は低木と雑草に覆われている)

検証結果

調査地の農林道にヤマガメが出現し易い条件を検証から読み取ると (1)、急斜面の山裾の側溝。(2)、沢・川などの水場が近くにある。(3) 側溝内に落ち葉や腐葉土の堆積物がある

(4)、側溝脇が雑草で覆われている。(5)、道路の両脇又は側溝側が樹木により陰を作り出している。(6)、側溝内に土壌動物や落下果実などの餌が多い。(7)、側溝が平地である。以上の条件が揃っている側溝では最もヤマガメが出現することが推測される。これを、農道側溝①~⑥・林道側溝⑦~⑨に上記の条件を照らし合わせると、下記ようになる。

農道側溝① = (1)、(2)、(3)、(4)、(6)、(7)

側溝② = (2)、(4)、(7)

側溝③ = (2)、(3)、(4)、(6)、(7)

側溝④ = (1)、(2)、(3)、(4)、(5)、(6)、(7)

側溝⑤ = (1)、(2)、(4)、(5)、(6)

側溝⑥ = (1)、(2)、(4)、(5)

林道側溝⑦ = (1)、(2)、(4)、(5)

側溝⑧ = (1)、(3)、(5)、(6)

側溝⑨ = (1)、(4)、(5)

となり、ヤマガメの出現条件として (1)、(2)、(4) が重要であると推測される。(6) の餌の条件が抜けているのは意外であるが、特に林道では堆積物が少なく餌の量からすると農道に比べ少なく、その結果側溝への出現数も少ないことをみると (6) も重要な条件に入ると考えられる。今回は検証しきれない再捕獲数を各位置と照らし合わせることによって、より明確となるであろう。

林道調査地のほぼ中間で、2001 年に駐車帯 2 に隣接する崩された山は、過去にも崩された地形であり、調査開始前には峰が分断されており、低木が密生していた。今回はそこが更に広げられた状態で、この場所では繰り返し人間の手が入り、そのつどヤマガメが林道の駐車帯 2 より道路横断側溝 S' に出てくる右側溝の頻度に少なからず変動を与えていたことが伺われ、この位置の山側左側溝は傾斜角が 8 度で側溝内には堆積物が無く、乾燥しているのに対し、右側溝は途中から傾斜が無く堆積物があることで、ヤマガメは道路を渡り右側溝に出現しているものと思われる場所でもある。2001 年 12 月の糸巻き調査で 1 個体 (Y 032) の例ではあるが、右側溝より道路を渡り、山中の崩された際まで行き、方向を変えて道路際の面積は小さいが約 1 m の深いコシダのブッシュ内で冬の約 2 ヶ月半過ごしたデータが得られており、そこに生息するヤマガメの生息数そのものに影響を与えたことが推測される。ただ、今回の山の破壊は前回より規模が大きく、コシダのブッシュも半分以下となり、この場所にヤマガメが戻る状態に回復するかは不明である。また、その上の道路横断側溝 S' より駐車帯 3 の左側溝に出現するヤマガメも、地図上の直線距離で約 150 m の範囲内であるが、その間にはコシダのブッシュが道路沿いや山中に数箇所あるにもかかわらず、その後徐々に側溝内での出現数を減らし、出現しなくなった。この原因の因果関係を明らかにするには、今後調査を継続する上で、側溝内だけでなく、山中を含めた調査 (側溝で発見した個体で、山中に入った数例の糸巻き調査では、その因果関係を示唆する行動はまだ出ていない) が必要であろう。

検証側溝の月別出現変動

これまでは、側溝内の出現条件を検証したが、その検証下での月別出現数の動向を下表に示す。

農道検証側溝（①～⑥）の月別出現個表

側溝 No	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
①	3	2	6	7	1		2			21
②		2	6	6	5	3		1		23
③	1	2	2	6	4					15
④	2	1	3	1	1	2	1		1	12
⑤		2	2	4	1			1		10
⑥			7	5	1		2			15
合計	6	9	26	29	13	5	5	2	1	96

上記の表を便宜上、出現個体 No 別を別紙グラフー 1 に示す。

林道検証側溝（⑦～⑨）の月別出現個体表

側溝 No	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
⑦		(1)	5(2)	1(8)	1(1)	(1)	4(4)	1		29
⑧	4(1)	3(3)	3(7)	4(17)	3(2)		(3)		1	51
⑨				2(4)	2					8
合計	5	7	17	36	9	1	11	1	1	88

上記の（ ）内数値は再捕獲個体数を示す。

上記の表を便宜上、出現個体 No 別に別紙グラフー 2 に示す。

結果

農道側溝①・③・④は 4 月より出現しており、側溝②・⑤は 5 月、側溝⑥は 6 月と最も遅い。側溝①・③・④は重要条件の（2）、（4）、（6）、側溝②・⑤は（2）、（4）、側溝⑥は（2）、（4）を満たしている。側溝①・③・④に対し側溝②・⑤・⑥が側溝に下りてくる時期が遅れる要因は（6）であり、側溝内の餌量が大きな鍵になるようで、側溝②は（6）が欠け、側溝⑤は（1）、（2）、（4）、（6）全て揃っているが、側溝内に流水があり側溝内の気温が上がるのが他の場所に比べ遅いのが条件以外の要因となっているようである。最も遅い側溝⑥は直接側溝に下りてくる個体が少なく、2004 年に側溝掃除が行われず側溝内が小枝、落ち葉、土などで分断された後に出現する個体が減っている結果から、側溝⑤の出現数の影響によるものと思われる。

ヤマガメが側溝より見られなくなるのは 11 月頃だが、側溝④のみ 12 月にも出現している。側溝④は他の側溝に比べ、4 月～12 月まで数は少ないが平均して出現している。その要因として腐葉土の堆積が多く側溝より上がりやすく、側溝に下りた個体の多くは出ているものと思われ、側溝内に留まるものは容易に身を隠すことができることで、他の側溝と異なった出現現象が見られると考えられる。また、好条件が整っている関係で、他の側溝より長く出現するこ

とが考えられる。これとは逆に側溝③は、4 月から徐々に出現し 7 月に出現のピークとなり 8 月以降に出現は見られないのは、堆積物は落ち葉が多く腐葉土が少ないことで、側溝①・④ほど餌が多くないことや、乾燥することによるものとみられる。

農道側溝に対し林道側溝は 3 箇所ともほぼ同じような条件にもかかわらず、農道とは異なる傾向を示すが、一貫性が見られず、検証個体数が少ないことが伺われる。そのため、林道だけは再捕獲個体数を合わせた状態での検証を行なった。

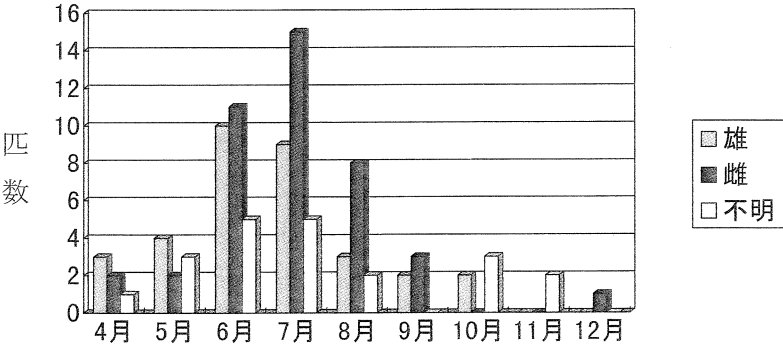
林道の 3 箇所はここに違いが見られ側溝⑦は 5 月より、側溝⑧は 4 月から林道の中で最も多く出現し、側溝⑨は最も遅く 7 月のピーク時前には出ていない。側溝⑦重要条件の（1）、（2）、（4）を満たし、側溝⑧は（1）、（4）、（6）を満たしているが、（4）、（6）は部分的に満たしているに過ぎない。しかし、この側溝は様々な環境を持ち、前半は側溝がほぼ平らで雑草に被われ、後半は雑草で覆われず斜度が 8 度とややきついが、日陰であること、道路の両側が山斜面であることなどで、餌も他の林道部より豊富なため、4 月よりヤマガメが出始め 7 月にピークを迎え、12 月までヤマガメの活動が見られる。側溝⑨はほぼ直線の斜度が 5 度あり、日当たりが他の 2 箇所に比べて良いことから、側溝が雑草で覆われない限り、ヤマガメの出現は見られない。そのため、再捕獲を合わせても 7 月のピーク時に始めて出現が見られるだけで、8 月以降にはすでに出現が見られなくなるが、他に比べ出現数が少なく、今の段階での検証は困難である。

林道は農道に比べ、7 月に出現数のピークを迎え、8 月に急に減り、10 月に再び増えるという農道とは異なる月別変動（農道①・⑥でやや林道と同じ傾向が見られる）の傾向が見られるが、農道も再捕獲を合わせ、再検討の必要性を要する。

検証側溝の月別出現個体の性比

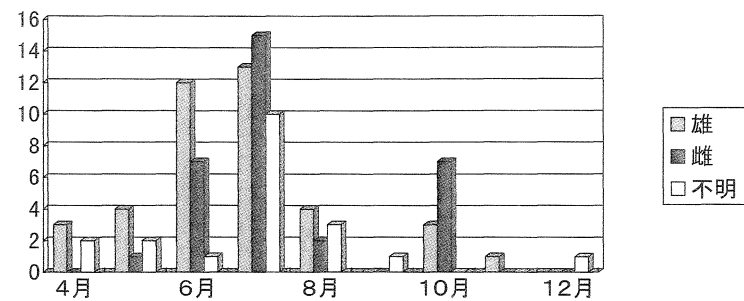
＊農道側溝に出現する個体の季節による性別変異を下の表とグラフに示した。

性別	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
雄	3	4	10	9	3	2	2	0	0	33
雌	2	2	11	15	8	3	0	0	1	42
不明	1	3	5	5	2	0	3	2	0	21
合計	6	9	26	29	13	5	5	2	1	96



＊林道側溝に出現する個体（林道マーキング個体が少なく、再捕獲個体数をも含めた）の性別変異を下の表とグラフに示した。

性別	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
雄	3	4	12	13	4	0	3	1	0	40
雌	0	1	7	15	2	0	7	0	0	32
不明	2	2	1	10	3	1	0	0	1	20
合計	5	7	20	38	9	1	10	1	1	92



結果

農道側溝では4・5月にオスが多く、6月以降は雌が多く見られる傾向が示されるが、（大谷、2003、沖縄県天然記念物調査シリーズ第41集3－2）の中で、飼育下ではあるが、ヤマガメの繁殖の中で、交尾期は8～12月に最もよく観察され、産卵は6～8月に多く見られたと述べており、雌が6月以降に産卵のため行動が活発となり、その結果、側溝に出現する個体も多くなるものと推定されるが、雄の交尾期には飼育下とずれが見られる。しかし、2000,10,24にY053（雄）がY054（雌）に対し、2001,09,11にY136（雄）がY138（雌）に対し、側溝内での追い駆け行動を目撃、この行動は交尾期の雌に対してのディスプレイであるとみられ、飼育下と野生下での交尾期がずれていることはないと思われ、単に筆者らの目撃数が少ないだけで、自然下では冬をはさみ5月頃まで継続することを示唆するのも知れない。

林道側溝においても、農道側溝に比べ1ヶ月ほどのずれは見られるが、農道側溝の出現に似ている。しかし、8・9月に減少した数が、10月に再び増えている現象の要因は不明である。

検証の考察

ヤマガメは農・林道の側溝に落ちるのではなく、自ら餌を求めて側溝へ入ってくることが、この検証で明らかだと考えられる。また側溝に入ったヤマガメは、そこに餌があればしばらく留まる個体や側溝より出る個体に分けられる。個体の留まる側溝の多くは検証の中であげられる条件を満たした側溝で、この条件を少なくすることにより、側溝に出現するヤマガメを減少させることも可能であろう。このことは斜面の多いことや、小動物が這い上がれるように側溝

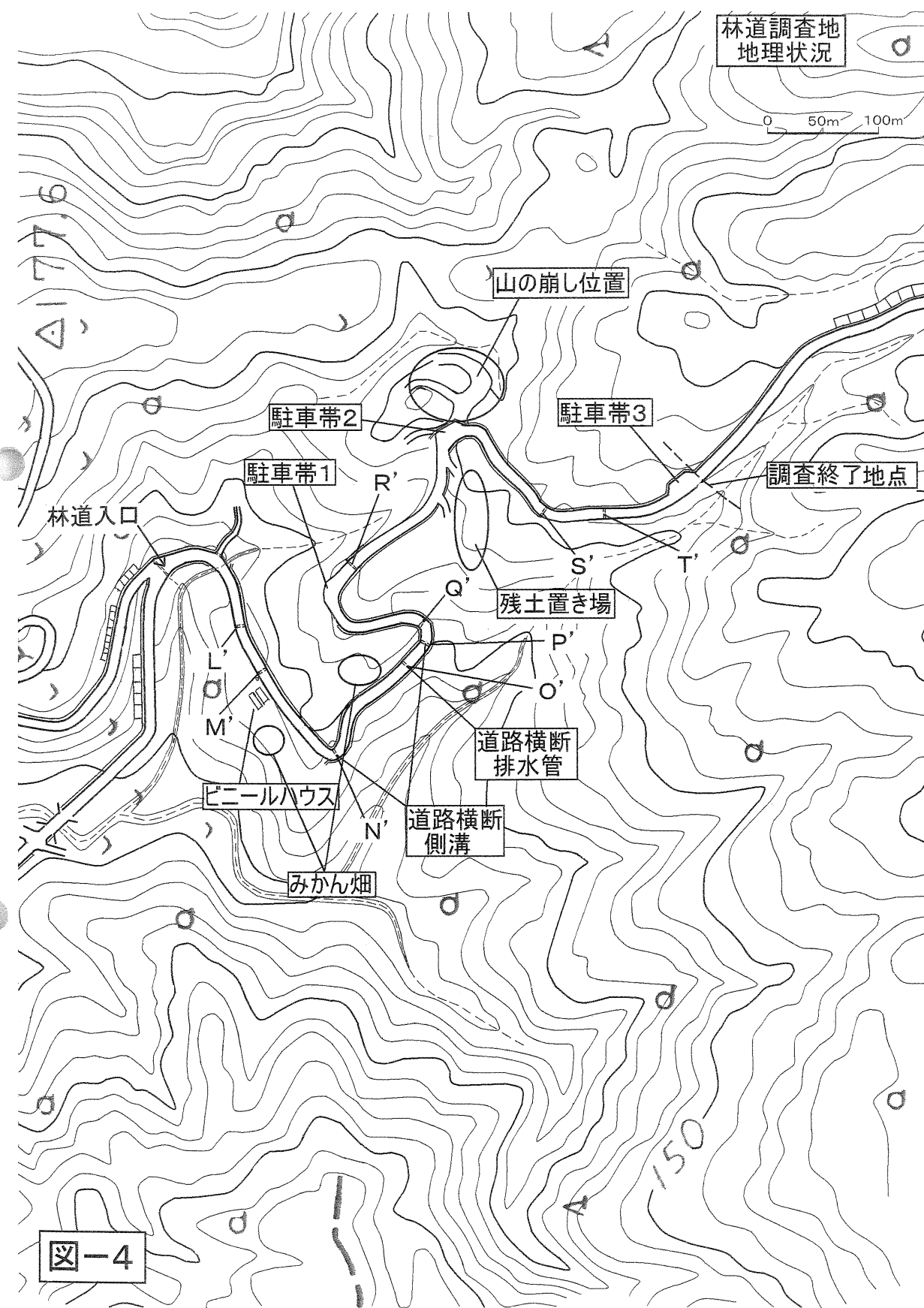
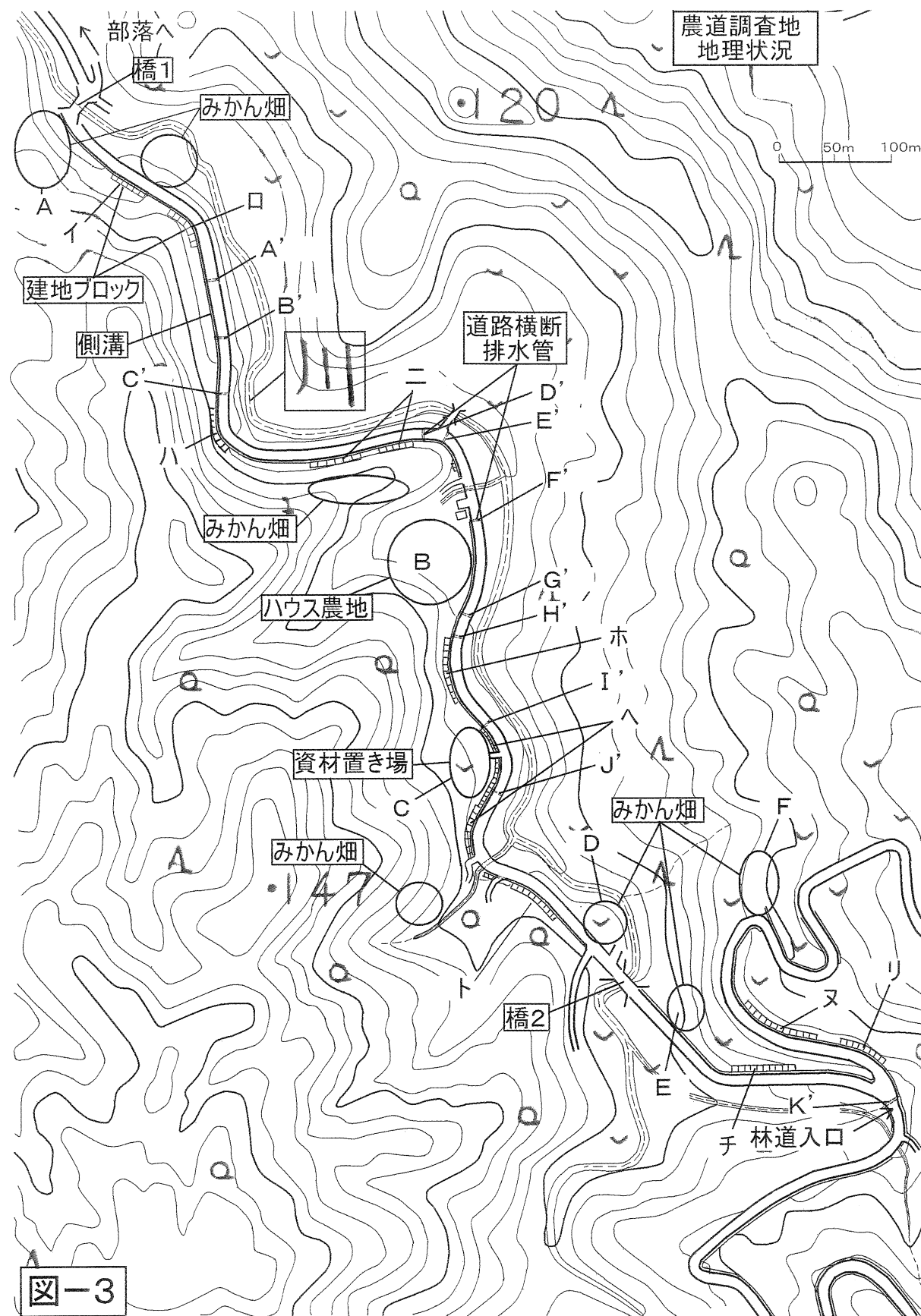
に出口（傾斜や階段）を設けた林道側溝で、ヤマガメの出現が少ないことでも分かり、山裾や山間部の農道においても、側溝構造に配慮の必要性を示唆し、ヤマガメに留まらず希少な野生動物の急激な減少を少しでも抑えるためにも、その対策を急ぐ必要があるのではなかろうか。

また、農道では人為的に持ち込まれた植物が林道に比べ多く（在来と外来種の植物の比較はなされていないが）、その中には果実を実らせる種も多く、林内より道路脇にヤマガメに限らず小動物の餌が豊富となり、それらが側溝に堆積し、小動物を誘引する原因にもなっているようである。側溝に堆積物が多い場所では、そこに餌を求めて出現したり、落ちた小動物を、最近急激に増えたカラスの餌食となる可能性もある。ヤマガメにおいても昨年に農道の側溝内でカラスによるものと思われる死亡個体が見られており、林道ではカラスが道路上ではあるが、ヤマガメを襲っている現場を筆者は確認している。また、データでは個体数が少ないが繁殖した子ガメ（調査地での聞き取りでは早朝に5～6匹側溝内で見かけたという例もある）も側溝や農林道に出てきており、子ガメにとってカラスは危険な存在になるであろう。

側溝内に出現するヤマガメの月別出現個体とその性比に関しては、（喜屋武、2003、沖縄県天然記念物調査シリーズ第41集3－3）で指摘しており、その結果を裏付ける結果となったに止まったが、その行動にはまだ不明な点が多く、これまでの再捕獲や糸巻き行動調査を解析するだけでなく、繁殖行動を含む行動調査を、今後もより継続的にする必要性を強く感ずる。

参考文献

沖縄県教育委員会（編）、2003、沖縄県天然記念物調査シリーズ第41集



沖縄市立郷土博物館紀要第13号

あやふや

2004年

沖縄市立郷土博物館

あやみや

第 13 号

も く じ

リュウキュウヤマガメ
〔過去 5 年間の調査より〕

大 谷 勉 (1)
喜屋武 優 子

沖縄島の蝶類食草について
—1992年からの記録から—

比 嘉 正 一 (17)

沖縄市東部の電力供給とラジオの普及について

川 副 裕一郎 (29)

沖縄市池原で確認されたシシ穴の概要について

比 嘉 清 和 (36)

エイサーにみる青年会活動とその展開

与那嶺 江利子 (42)

本誌のタイトルに付された「あやみや」という言葉は『おもろさうし』から引用したもので「美しい庭」の意味をもつものです。調査研究のみならず博物館の活動が、美しい庭のように多くの花が咲き誇ることを願って命名されています。

■表2 日本列島縦断エイサーキャラバンスケジュール■

都市	日 程	派遣青年会	会 場
札 幌	4 / 27 ~ 28	沖縄市越来青年会	丸井札幌本店、市内各地
熊 本	5 / 11 ~ 12	宜野湾市宜野湾区青年会	市内各地
広 島	5 / 25 ~ 26	沖縄市登川青年会	福屋広島駅前店、市内各地
仙 台	6 / 1 ~ 2	糸満市武富青年会	藤崎百貨店、市内各地
大 阪	6 / 8 ~ 9	与那城町屋慶名青年会	阪神百貨店、市内各地
名古屋	6 / 22 ~ 23	北谷町栄口青年会	名古屋三越栄本店、市内各地
郡 山	6 / 22 ~ 23	具志川市赤野青年会	うすい百貨店、市内各地
松 山	6 / 29 ~ 30	名護市青年団やんばる船	市内各地
岡 山	7 / 12 ~ 13	嘉手納町千原エイサー保存会	市内各地
神 戸	7 / 14	嘉手納町千原エイサー保存会	市内各地
東 京	7 / 27 ~ 28	沖縄市胡屋青年会	伊勢丹新宿本店、市内各地
金 沢	8 / 3 ~ 4	南風原町津嘉山青年会	市内各地
新 潟	9 / 7 ~ 8	読谷村座喜味青年会	新潟伊勢丹、市内各地
福 岡	9 / 14 ~ 15	沖縄市園田青年会	市内各地
青 森	9 / 28 ~ 29	勝連町平敷屋青年会	市内各地

■表3 沖縄市エイサーマンズリーイベント日程■

日 付	イ ベ ント	場 所	備 考
7月20日(土)	エイサー資料展 エイサー体験	エイサー会館 パルミラ通り	海の日
7月21日(日)	風山祭	山内中学校	山内地区
7月30日(火)	エイサーシンポジウム	沖縄市民小劇場あしびなー	
8月3日(土)	全国エイサー大会	沖縄市野外ステージ	
8月4日(日)	エイサー道じゅねー	胡屋地区周辺	
8月7日(水)	エイサー体験	エイサー会館	観光週間
8月11日(日)	エイサー道じゅねー予備		
8月18日(日)	沖縄全島子どもエイサーまつり	農民研修センター	
8月21日(土) ~23日(金)	旧盆エイサー道じゅねー	市内各地	旧盆
8月31日(土)	沖縄市青年まつり	市陸上競技場	前夜祭
9月1日(日)	沖縄全島エイサーまつり	市陸上競技場	市主催
9月22日(日)	かりゆしエイサーまつり	農民研修センター	登川地区

■表4 平成14年度県外派遣イベント及び青年会■

日 付	派遣イベント名	派遣青年会	人数	主 催
4月26~29日	全国エイサー道じゅねー(札幌)	越来青年会	30	沖縄県
5月24~27日	全国エイサー道じゅねー(広島)	登川青年会	30	沖縄県
7月26~28日	全国エイサー道じゅねー(東京)	胡屋青年会	30	沖縄県
9月7~9日	函館昆布フェスタ	知花青年会	10	函館市
9月13~15日	全国エイサー道じゅねー(福岡)	園田青年会	30	沖縄県
9月14~16日	町田エイサー祭り	諸見里青年会	45	町田市
10月12~14日	小松どんどん祭り	山里青年会	20	小松市

○ 執筆者

- 大 谷 勉 高田爬虫類研究所沖縄分室
郷土博物館協議会委員
- 喜屋武 優 子 (株)沖縄環境保全研究所
- 比 嘉 正 一 (有)東南植物楽園学芸員
郷土博物館協議会委員
- 与那嶺 江利子 沖縄市立中央公民館
郷土博物館友の会会員
- 比 嘉 清 和 郷土博物館学芸員
- 川 副 裕一郎 郷土博物館学芸員

あやみや 第13号

発行年月日/平成17年(2005年)3月31日

編集発行/沖縄市立郷土博物館

〒904-0031 沖縄県沖縄市上地2-19-6 TEL (098) 932-6882

印 刷/(有)曙印刷

〒904-2172 沖縄県沖縄市泡瀬4-31-15 TEL (098) 938-7884